

中山間地域の住民福祉の向上のための地域マネジメントシステムの構築 — 「健康」と「生き甲斐」の学際的分析を通じたアプローチ —

A Joint Study on the Building of Regional Management Systems for Enhancing Human Welfare in Rural Area

生活習慣病予知予防のための遺伝疫学研究

Genetic epidemiological study of multifactorial diseases

グループ紹介

研究代表者：並河 徹 (医学部・教授)
塩飽邦憲 (医学部・教授), 山口修平 (医学部・教授),
益田順一 (医学部・教授), 王 涛 (プロジェクト研究推進機構・研究員),
李 麗梅 (プロジェクト研究推進機構・研究員)

Leader : Toru Nabika (Faculty of Medicine・Professor)
Kuninori Shiwaku (Faculty of Medicine・Professor), Shuhei Yamaguchi (Faculty of Medicine・Professor),
Junichi Masuda (Faculty of Medicine・Professor), Tao Wang (Research Project Promotion Institute・Researcher),
Limei Li (Research Project Promotion Institute・Researcher)

概要

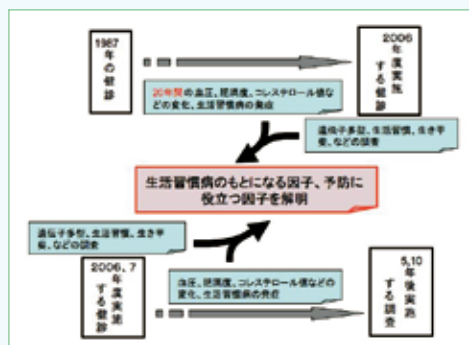
動脈硬化, メタボリック症候群など生活習慣病になりやすくなる環境因子や, そのような病気になりやすい体質を決める遺伝因子を明らかにして, このような病気のよりよい予防につなげることを目指す研究です。

This genetic epidemiological study is designed to identify genetic and environmental factors involved in the pathogenesis of multifactorial diseases such as atherosclerosis, hypertension and insulin resistance. The final goal of the study is to develop a better strategy for the prevention of such diseases and to promote longevity with good health.

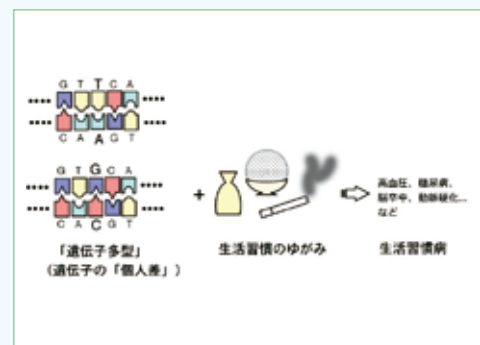
特色 研究成果 今後の展望

島根県雲南市と雲南市在住の地域住民の方のご協力の下に, 2006年, 2007年と計1300名あまりの方の健康調査を実施しました。そのうち, 約600名の方については, 20年前の健康調査のデータがあるため, 20年間の健康状態の変化がわかります。例えば, 血圧が大きく上がった人もあればあまり上がらなかった人もいます。このような変化に影響した要因を, 個々人の体質を決める「遺伝子多型」や喫煙, 食生活, 生き甲斐などの要因を調べることで, 明らかにしようと試みています。健康調査にご協力くださった方は今後5-10年間追跡調査をさせていただき, それぞれの方の「体質」や今現在の生活習慣が将来の健康状態にどのように影響するかについても調べさせていただきます。

長期にわたる研究ですが, これによって, どのような要因が生活習慣病に関係するか明らかになり, よりよい予防法を見つけるために役立つと考えます。



研究の計画



生活習慣病のメカニズム

		60歳代	N	肥満	高血圧	高コレステロール
男	1987年	160	160	20%	63%	17%
	2006年	75	75	26	55	26
女	1987年	254	254	28	57	47
	2006年	132	132	26	58	55

【20年前と今回の健康調査の比較】肥満や高コレステロールの人が増えている。高血圧は増えていないがまだ半数以上の人が高血圧にかかっていることがわかる。